

会議録

会議名	第1回 胎内市総合計画等審議会
日時	令和7年12月23日 18:00から
場所	胎内市役所 大会議室
出席者氏名	川上委員、井上委員、齋藤委員、亀山委員、伊藤委員、鈴木委員、佐藤委員、渡辺委員、藤井委員、上山委員、安原委員、坂上委員、久世委員
欠席者氏名	瀬賀委員、古俣委員、松浦委員
議題	(1) 議事録署名委員の選出について (2) 第3次胎内市総合計画及び人口ビジョン・第3期総合戦略の策定について (3) 第3次胎内市総合計画の策定に向けたアンケート調査表(案)について
公開・非公開の別	公開
非公開理由	
傍聴人の数	1名
配付資料名	資料1 胎内市総合計画策定審議会条例 資料2 胎内市総合計画策定審議会委員名簿 資料3 胎内市総合計画策定審議会傍聴規程 資料4 まち・ひと・しごと創生に関する国の動向について 資料5 第3次胎内市総合計画及び人口ビジョン・第3期総合戦略の策定方針(案) 資料6 「第3次胎内市総合計画」策定に向けたアンケート調査表 参考資料1 第2次胎内市総合計画 参考資料2 人口ビジョン、第2期総合戦略
会議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 審議会委員紹介</p> <p>※各委員及び事務局の紹介</p> <p>3. 審議会会長及び副会長の選任について</p> <p>※事務局推薦により会長に鈴木委員、副会長に佐藤委員を選任 ※鈴木会長、佐藤副会長からあいさつ ※これより会長による議事進行 ※事務局から委員の出欠報告。委員16名のうち13名出席。本審議会の成立を確認</p> <p>4. 審議会傍聴規程について</p> <p>※事務局から資料3「胎内市総合計画策定審議会傍聴規程」に基づいて説明 鈴木会長：本日は議事から、次回以降は最初から会議を公開することを原則とする。 ※傍聴者1名</p> <p>5. 議事</p> <p>(1) 議事録署名委員の選出について</p> <p>鈴木会長：会長に一任することについて、委員の皆様の承諾をお願いしたい。 ※異議ないため、議事録署名委員に佐藤委員を選任</p>

(2) 第3次胎内市総合計画及び人口ビジョン・第3期総合戦略の策定について

※策定支援業者（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）から資料4「まち・ひと・しごと創生に関する国の動向について」に基づいて説明

【質疑・意見交換】

委員：東京一極集中を是正すると、東京都自身は人が流れていって税収が減ってしまうと思いますが、東京都との折り合いというのはどうなのですか。

事務局（委託業者）：基本的に都心の自治体は、地方に分散していくことを前提に取組を考えることとは言われていますが、分散を前提とした具体的な数値目標は示されていない場合が多く、地域経済の活性化策に重点が置かれている事例が多いと思います。

委員：大都市東京と地方の交流人口の行き来とか、地方に流れてくる人口を増やすとか、東京と本格的に連携するとか、東京のコンセンサスが取れていることも1つのテーマかと思ったので、聞かせていただきました。

会長：KPIという言葉が入ってきていますが、具体的な数値目標を明確にするというところが地方創生の特徴で、今までの計画とはニュアンスが違うと思います。他に質問などはよろしいですか。

それでは、次の説明を事務局お願いします。

※事務局から資料に基づいて、現在の「人口ビジョン」「総合戦略」「総合計画」を基に、「計画の目的・位置づけ・内容」「策定スケジュール」についての説明

委員：この会議は、胎内市全体の方向を決めていくものだと思いますが、審議会は策定までに何回開催される予定ですか。

事務局：今年度が今日を含めて2回、来年度は基礎調査が揃って、基本構想の策定、基本計画の策定を控えていますので、7～8回程度予定しています。

委員：今回の審議会は、12月の年末という時期に、第1回の会議が開催されるのはどうかと思いました。時間も午後6時集合で8時までということで、他自治体では、皆さんの都合もあるかと思いますが、平日の昼間にだいたい開催されますし、前もって連絡もあります。この審議会は、日程も直前に連絡がありました。今後もこのような流れになるのですか。

事務局：連絡が直前になってしまい、大変申し訳ございませんでした。時間帯については、委員の方の声を聞きますと、お勤めされている方が過半数を占めていますので、出席率を勘案しますと夜の時間が適切ではないかと判断しまして、この時間帯にさせていただきました。

委員：月に1回、何日の何時に審議会が開催されるということが通知されて、開催されることは一般的で、勤め人が多いからということで、毎回夜に開催されるのはおかしいのではないかと思います。人それぞれ事情があるのはわかりますが、審議員になられたのであれば出席していただくか、出席できないのであれば事前に意見を伝えておくなど、このような形で行うのが普通ではないかと思います。

会長：私が高自治体で参加しているところは、土曜に開催しているところや、夜開催しているところもありますし、場合によっては高校生が委員になっていると平日の日中はそもそも難しいところがありますし、夜に偏らないようにいろいろやり方はあると思います。

事務局：今回については、事務局側で一方的に日時を決めてしまったところもあるので、次回の開催にあたっては、皆様にお伺いして開催日時を決めさせていただきたいと思います。平日の昼間や土日も含めて検討させていただきます。

副会長：今年度は開催日程がスケジュールにあります。来年度についてもある程度決めていただくことはできませんか。年間のスケジュールがわかれば、皆さん予定が立てやすいと思います。

事務局：年間のスケジュールについては、なるべく早くお示しさせていただきたいと思います。進

捗状況によっては、予定が前後する場合もあると思いますが、審議会の日程に合わせて、策定を進めていけるようなスケジュールにできればと思います。

委員：基本構想が5本柱になっていますが、他自治体の成功事例としてスマートシティなどあると思います。基本政策とか基本構想の概念の中で、そういったものを増やしていく可能性はありますか。それとも、この5本柱は決まっていて、その下をデジタル化など入れていくのかどちらですか。

事務局：基本構想の部分は、議会の議決が必要な部分になりますので、市長が変わったり、大きな変化があったりしなければ、基本10年間は改定されません。下の基本計画、29の柱の部分については議決事項ではありません。社会情勢の変化等に迅速に対応しなければいけません。スマートシティやDX、デジタル化というところも、現計画ではそこまで踏み込んだ記載がありませんので、庁内でも指針を設けてワーキンググループをつくって進めていますし、次期計画では盛り込んで参りたいと思っています。

委員：内閣府とか内閣官房が出している策定要素などは、ここに書いてある通りだと思います。その中で、他に先行して成功している都市なども出てきているので、その辺の要素なども盛り込んでいくといいのではと思いました。

委員：アンケート調査票についての内容も、本日審議すると思います。このたたき台は、よくできていると思いますが、どれくらいの時間をかけて、何人くらいで作成されたのですか。

事務局：このアンケート自体が、現計画の29の施策について、皆さんの満足度を把握して、これから何を優先的に進めていくのかという方向性を決めるためのアンケートでもあります。それから、今の行政に対して求めていることや課題を、皆さんからお聞きして次期計画に生かすという趣旨があります。総合政策課の方で作成して、並行して庁内各課の方に設問項目等について照会をかけた上で、委員の皆様にお示ししているところです。

委員：アンケートの回収率は、前回は38%でしたので、それに基づいて配布数など決めたのだと思いますが、これが次期計画の重要な材料になるのであれば、1,000部というのは少ないのではないかと思います。

事務局：一般的にアンケートは回答数を確保したいので、回答率を試算して配布数を決めます。

事務局：今回、配布数を1,000部とさせていただいた根拠としては、必要数を400に設定しまして、回収率を40%と想定したため、1,000部となりました。回収率をなぜ40%に想定したかと言いますと、今年の2月に定住意識調査を行った際に、回収率が43~44%で推移していたため、その数値を参考値としました。委員がおっしゃったように、サンプルはできるだけ多い方がいいということであれば、もう少し配布数を増やしてもいいと思います。

事務局(委託業者)：少し補足をしますと、一般的にアンケート調査票は、郵送でお送りをして返信用封筒で返送していただくことが多いと思います。その場合、他の自治体さんでも大体3割台の回収率になることが多くて、4割いけばいい方だと思います。また、このようなアンケートを行うと、どうしても若い方の回答の割合は低く、50代、60代以上の方の割合が高くなってしまいう傾向もあります。そこで、若い方からの回答をいただけるよう、アンケートの表紙にWEB上でも回答ができるようQRコードを載せて、スマホで読み取って回答いただけるような仕組みも入れさせていただき予定ではあるので、今まで以上の回収率を見込んでいきたいというところは前提としてあります。

委員：郵送して、デジタルも入れていくということですね。

事務局(委託業者)：はい、郵送で送りますが、回答の方法は選んでいただく形になります。

会長：アンケートについて、たくさん質問をしていただいていますので、事務局から説明をお願いしたいと思います。

(3) 第3次胎内市総合計画の策定に向けたアンケート調査表(案)について

※事務局から資料6「第3次胎内市総合計画基本計画」策定に向けたアンケート調査表に基づいて

説明

【質疑・意見交換】

会 長：無作為だと高齢者の人数が多いため高齢者の配布数が多くなるというやり方と、各世代に満遍なく配布するというやり方があると思いますが、今回は無作為ということですか。

事務局：おっしゃる通りで、無作為ですと高齢者の方が件数として多くなってしまいますし、高齢者の方の回答率も高いので、どうしても若い方の意見が少なくなってしまうという課題もありましたので、配布数は若干の調整を行って、高齢者を減らして若者を増やしています。

委 員：全体の配布数を1,200部などに増やして、その分20代・30代・40代などの配布数を増やせば、今回はWEB回答もあるので、若者の回答率も上がってくると思います。前回計画の時に、アンケートの項目があり過ぎて、回答するのが大変で出さなかったという人もいました。もう少し答えやすいやり方がないものかと思います。

会 長：本当はその他にご意見を記入していただきたいのですが、できるだけ選択肢を多くして負担にならないようにしていますね。実際、回答するのにどれくらいの時間がかかりますか。

事務局：自由記述を除くと、5～10分くらいの想定となっています。

副会長：私は過去に回答しましたが、じっくり読み込みながら回答すると、もっとかかります。1世帯に1部ですか。

事務局：無作為ですので、場合によっては何部か届くこともあります。

副会長：そうすると、やはり家にあまりいない若い世代より、家にいる時間が長い高齢者世代の回答率が高くなりますね。

委 員：若い方の意見や考え方がもっとほしいということですが、予算や時間の関係などあるとは思いますが、胎内市にある中学校や高校、大学など学校側に協力してもらうことはできないものですか。

事務局：このアンケートは16才以上が対象となりますが、小学6年生と中学3年生を対象とした、定住意識調査というものを検討しています。これから、未来を担っていく若い世代の意見を広く聴取させていただきたいと思っていますので、来年度どのタイミングになるのかは検討段階ではありますが、そのようなことを考えています。

会 長：中学生などの意見を聞く方法としては、ワークショップも使えると思いますので、ぜひご提案いただければと思います。

委 員：そういう意味では、先ほど母集団の1,000部について、その妥当性について説明していただきましたが、若い方の意見としては、400のうちどれぐらいを目標にしていますか。今のやり方で目標値に到達できる見込みなのか、今いろいろアイデアが出ているものを取り入れた方がいいのか、いかがですか。

事務局：やはり若い方の回答率は低いので、意見を聴取するという意味でも、今回のアンケートに加えて小中学生へのアンケートを行うことや、あとこれは教育委員会の協力も必要になってきますが、実際に小中学生に総合計画についての理解を深めてもらって、若いうちから参加意識を持ってもらうなど、少しでも広げていけたらいいかなと、今、委員のご意見をお聞きしながら、そういうのも必要だなと改めて感じているところです。

委 員：12月上旬に、人権に対する意識調査を行うと思いますが、やはり若い人たちの意見は少ないですか。

事務局：やはり同じような状況で、若い方の回答は少なかったのですが、中学生向けにアンケートを行いました。ただ、WEB回答も行ったので、大分回答率は上がりました。

副会長：学校や学生さんに協力してもらうのは、とてもいいアイデアだと思いました。委員がおっしゃったように、回答の途中で止めてしまうという課題もあると思いますが、そもそも若い世代にとって関心を引きにくい内容になっている可能性があります。回答して市役所ま

で持ってきてくれたら、何かお土産を渡すなどあれば、少しは楽しくできるのではないかと思います。

委員：私も賛成です。ただ回答するだけでなく、若い人がせっかくやってくれたら、何かお返しにちょっとしたものをあげることで、回答率は上がると思います。

会長：若者の意向を聞きたいというのはとても大事で、前回のアンケートの回答数は、高齢者の割合が多かったので、結果として高齢者の意向にバイアスがかかってしまいました。

委員：将来を支えるのは、子どもたちや若い世代の方なので、高齢者の声も取り入れながらも、胎内市に魅力がないと若い方は残っていかないと思いますので、そういう若い人たちの意見をしっかり取り入れられるように、意見を言えるようにしていくべきだと思います。

委員：私も、何回かアンケートに答えたことがあります。本当にランダムなのかと思うくらい、いろいろな課からアンケートが届きます。はじめて受け取ったのが、子どもが1歳くらいの時で、家に帰ったら子どもと格闘するような中だったので、開けて見て捨てました。このアンケート自体が、自分の生活に密着している感があまり感じられないので、胎内市に対して意識がある方はどのような状況でも取り組んでいただけたと思いますが、そうではない方が大半かと思っています。そうであれば、回答してくださった方に特典を付けるのも1つだと思います。また、事前に防災無線で、このような目的でアンケートを配布するので、届いた方はご協力くださいなど一言あれば、急に分厚いアンケートが届くより、1割くらいの方は気持ちが変わるかと思っています。事前の告知と特典、それから子どものいる家庭だったら、自分の子どもの将来にどう関わるのかが、一目でわかるようなビジュアルが表紙にあるような工夫があればと思います。

委員：私は、逆に今までこのようなアンケートが届いたことがありませんが、確かにこれが届いたらやらないと思います。このアンケートは、誰に送ったかはわかるのですか。

事務局：送ったのが誰かはわかりますが、返ってきたのが誰かはわかりません。

委員：子育て世代の回答率が悪いのであれば、学校に協力してもらって、学校を通じて表紙のQRコードの面を配布して、保護者アンケートの形で協力をお願いしますと言えば、分厚いものが届くより回答しやすいと思います。

委員：子どもを通して持ち帰ってくれば、正直回答しなければと保護者は思うと思います。中身については、問6で胎内市の施策の満足度を聞かれています。満足も何も何も何をしているのかわからないという回答欄がほしいと思いました。もう少しわかりやすく、軽い感じで聞いた方が、若者世代は回答しやすいと思います。

委員：市役所の人は大変かもしれませんが、昔はこのようなやり方でも、ボリュームがあっても、回答してくれる人は結構いたと思いますが、今の人たちは、すぐにできそうにないと敬遠すると思うので、皆さんおっしゃっているように特典を付けたり、学校を巻き込んで学校でアンケートをやって、市の職員がわかりやすく説明するといいいのではと思いました。

委員：例えば、「胎内市の施策を知っていますか」という間に、イエスと答えた人は次に進んで、ノーと答えた人はそこで終わりとするのはどうですか。そもそも、委員が言われたように、どんな施策をやっているかもわからなければ、答えられないという人はいると思います。イエスかノーで答えをたどっていくというやり方も、1つの方法ではないかと話を聞いてみました。

委員：実際、これからの胎内市をどうしていくかというのが一番の問題なので、次世代の方から回答をもらいたいのが本音だと思います。それに対して、今いろいろな意見がありましたので、それらを頭に入れながらアンケートを作成していただければと思います。

副会長：今、若い世代に注目していますが、人生の先輩であるおじいちゃん、おばあちゃんの見聞もやはり大事なので、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんなどと一緒に、微笑ましくやれるような感じでもいいのではないかと思います。

委員：本当はアンケートの中の全部の回答が取ればいいですが、興味があるところとないところは人それぞれだと思うので、一部だけ回答するのもいいのではないかと思います。私が、

子育てが一番きつかった時に、本当にどうでもいいなと思ったのは郷土の歴史・文化ですが、子育て支援については割と真剣に答えていたなと思いました。だから、全部取れば本当は理想ですが、全部やる人はきっと黙っていても全部やってくれると思いますので、一部だけでも声を拾えるように、例えばページごとに「次いける」「次いけない」とか「ここで終わり」とか、分割的な選択肢があってもいいのではと思いました。

事務局：書面であれば、回答できるところだけにチェックして返してもらえればいいですし、WEB回答についても、答えられないところはどんどん飛ばして回答できるような回答フォームにしてもらおうと思っています。興味がないと答えようがない設問もいくつかありますので、WEB回答についても必須項目はあえて外した上でアンケートをさせてもらおうと思います。

委員：私も、アンケートに回答したことがありませんが、これにきっちり答えようと思うと大変だと思います。だけど、回答してもらわないとデータは取れませんし、データがないと動きがわからなくなります。シンプルにすれば答えやすくなるけど、そこから得られる情報は少なくなりますし、すごくジレンマを感じています。だから、一番理想的なのは、すごく読みやすく、パッと見て次々答えていけて、豊富な情報が得られるということだと思います。それでは、どうしたらいいかですが、まずはWEBのやり方を確立すること、そしてやる元気を出すためにインセンティブの付与も検討すべきではないかと考えます。実際にどうやるかと言われると難しいですが、知恵が必要です。

副会長：この表紙も硬い印象です。もう少し「人が減って大変なの。助けて。」みたいな危機感が伝わる表現を取り入れてはどうですか。

委員：このカットがあるだけでも、文字だけよりはやってみようかと多少は思います。

委員：総合計画と言われて、市民の皆さんがどのようなイメージを持たれるのかなと思います。漠然として、あまりよくわからないのが正直なところだと思います。これで、自分の生活がどのように変わるのかなど、リアル感がないので伝わりづらいと思いますので、「こうなるかも！」という内容があってもいいのではと感じました。それから、若い方からの情報をなかなか得られないという中で、この配布数1,000部というのは、だいたいこれぐらいになるのでしょうか。

事務局：先ほど、今年の2月に行った定住意識調査の回収率をベースにしたというお話をさせてもらったのですが、設問の数がだいたい半分ぐらいだったので、設問が倍になると当然回答率は下がってくることも想定されます。配布数についてはもう少し増やして、サンプル数を400確保できるようにしたいと思います。

委員：回答数がほしいのであれば、配布数を増やすのがいいと思います。

鈴木会長：それでは、総合戦略・総合計画についてはよろしいですか。

次の、その他に進みたいと思います。事務局お願いします。

6. その他

事務局：本日、出席いただいた委員の皆様のお座の方に、委員報酬をお支払いさせていただきます。来年の1月下旬を予定しています。次回の審議会のスケジュールにつきましては、今回、ご審議いただいたアンケートの調査結果、人口展望の基礎調査の内容を踏まえて、計画策定に向けた議論をお願いする予定です。来年の3月頃を予定しています。早めに皆さんの方に、ご案内をしたいと思います。よろしくをお願いします。

7. 閉会

議事録署名人

いた 藤 亜由美